

Search

on



Haz-Map Search

More Searches

Haz-Map Help

Glossary

References

Browse Haz-Map

Search TOXNET

Symptom Finding	headache
Category	Neurological
ICD-9 Code	784.0
Synonyms	cephalgia, cephalalgia, head pain, cephalodynia
Medical Subject Heading	Headache
Related Information in Haz-Map	
Diseases	<p>Diseases associated with this finding or symptom:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Arboviral encephalitides ◆ Arenaviral hemorrhagic fevers (S. America) ◆ Asphyxiation, chemical ◆ Asphyxiation, simple ◆ E1-virus meningoencephalitis ◆ Encephalitis ◆ Capnocytophaga infection ◆ Coccidioidomycosis ◆ Colorado tick fever ◆ Crimean Congo hemorrhagic fever ◆ Cryptococcosis ◆ Ebola-Marburg viral diseases ◆ Ehrlichiosis ◆ Encephalopathy, acute toxic ◆ Fungiata, acute toxic effect ◆ Glanders ◆ Grain fever ◆ Hantavirus pulmonary syndrome ◆ hemorrhagic fever with renal syndrome ◆ Hendra and Nipah virus diseases ◆ Histoplasmosis ◆ Humidifier fever ◆ Hypersensitivity pneumonitis, acute ◆ Influenza

厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）
健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究
（主任研究者：緒方裕光）

分担研究報告書

2. 健康危機管理職員研修に対するインターネットを用いた支援方法に関する研究

分担研究者	土井徹	国立保健医療科学院研究情報センター
研究協力者	郡山一明	救命救急九州研修所
研究協力者	谷口清州	国立感染症研究所感染症情報センター
研究協力者	土戸啓史	千葉県海匠保健所
研究協力者	若杉英志	愛知県新城保健所

（50音順）

研究要旨： 地方自治体各機関の健康危機管理関連職員が健康危機管理に関する研修をインターネットを通じて学習できる方法を検討した。国立保健医療科学院を研修場として実施している「保健所長等健康危機管理研修」で使用された教材を資料として、日常的に自己学習できる教材の作成を試みた。

研究方法： 教材「台風被害に関する保健所活動」の一部を①「日付」②「状況」③「設問」④「確認方式（チェックする事柄）」⑤「準備すべきマニュアル類」の項目に整理し、研修のためのシステムにアップする。この教材を更に充実させるための方策を検討した。

結果： 作成した教材はエクセルファイルで示したほか、各機関の端末でインターネットを介して（具体的には、国立保健医療科学院のホームページに搭載されている「健康危機管理支援情報システム（H-CRISIS）」を介して）利用できるシステムにアップする。各機関での日常的な研修に供するための統一的な教材としてはまだ十分ではなく、各機関で職場に適合した教材に作り替えることの重要性を示した。

まとめ： このような教材をインターネットにより配信して、各現場機関で利用する方法には、次ような利点がある。①この教材を基に、自分の職場に適する教材を職員全員で考えることにより、納得のいく教材を作成することが出来る。②この過程で、職員全員が健康危機発生に対する対応センスを培うことが出来る。③状況に応じてどのようなマニュアルが必要かを考えるので、自分の職場に適し、かつ必要なマニュアルを作成することが出来る。④人の配置、物の配置など機関内の整備方針がわかる。⑤必要なマニュアル綴りの種類と構成、壁への貼付物の種類がわかる。

A. 目的

健康危機管理職員を対象とした研修には、総論、分野別の対応、演習（ロールプレイを含む）等が集合研修として国立保健医療科学院はじめ

各地で行われ、実際を想定した模擬行動の訓練も実施されている。一方、健康危機が発生した際の行動の仕方として職場に常備しているマニュアルの使いやすさに疑問もあり、職員が移動

する度に再度、はじめから学習を促す冗長性に不満も挙げられている。よく行われている集合研修は時間や場所の調整が必要で、日常的に行われることが無いのに対し、インターネットを用いた研修が可能になれば、しかもそれが自己学習できるものであれば、健康危機管理職員にとって日常的に研修に接することができ、緊急時に適切な対応がとられるものと考えられる。インターネットを用いた研修としては、行動指揮を中心とした臨場感のある模擬訓練や教材を中心とした机上教育が考えられるが、健康危機管理に関する基礎的認識が整理されないままでの模擬訓練には限界があり、一過性のものとしての体験としか残らない可能性もある。そこで今年度は、教材を中心とした机上教育において自己学習のできるシステムを考えることにした。

B. 資料及び方法

1. 国立保健医療科学院を研修場として実施している「保健所長等健康危機管理研修」で使用された教材を資料とすることにした。

2. 「インターネットを用いた研修」ということを前提に、以下のような研修支援に対する考え方を整理した。

1) 基本的な考え方

①平常時訓練といえども、想定は危機発生時のことである（検査法、除染法等平常時に学習すべき研修項目は除く）。

②とるべき行動の回答例に明らかに誤った内容は入れられない。

③明らかに誤った内容以外は、職場の状況（勤務時間中か否か、事業実施中か否か、職場人数と構成 等）によって、優先順位は異なるので、選択した順位が誤った行動かわからない場合がある。

以上の事から、設問を提示して正解を選ば

せる「正解選択方式」は作成が困難であるので、確認すべき項目を列挙する「確認方式」を採用することにした。

2) 状況の設定

①固定できる状況：時間、場所、強さ

例：固定できる状況「*時に*市で、震度**の地震がありました」

②受講者に任せる状況：人数、構成

例：受講者に任せる状況「あなたのHCには**職が*人……」

3) シミュレーションの終局として目指すこと

①状況に対する対応センスを培う事

②どのようなマニュアルの準備が必要か気づかせる事（職場によって異なるはず）

③一定の行動様式を固める事（電話を掛ける、人員を割く 等）

④一定の行動様式以外のオプションの種類を知ること

3. これらのことから、上記の教材の内、①「日付」②「状況」③「設問」④「確認方式」⑤「準備すべきマニュアル類」の5項目に整理しやすい教材を資料として選定することにした。

（倫理面への配慮）

個人情報を使用する研究ではないので倫理面での問題は無い。

C. 結果

1. 「台風被害に関する保健所活動」の教材の一部分を各項目毎に整理したものを表1に示す。

2. 図1は、表1の内容をPC端末で研修に用いる方式に表現したものである。

3. 表2はこの方式での研修教材を作成する際の提案を記したものである。未整理な部分も多いが、実体験からの貴重な意見が述べられている

る。

4. 表3は表1に対する代替案を記したものである。すなわち、シミュレーションの項目だて5項目①「日付」②「状況」③「設問」④「確認方式」⑤「準備すべきマニュアル類」に対し、①「日付」②「状況設定」③「設問」④「とるべきアクション」⑤「必要な情報・資料と機材」⑥「作成すべき書類と書式」の6項目を案としたものである。また追加内容を斜字で記した。

D. 考察

健康危機管理関連職員にインターネットを用いた研修支援を行うには、いくつかの方法が考えられる。

- 1) 提供主体と受講主体
 - ①各現場機関で実施・受講
 - ②中央機関が実施し、各現場機関で受講
- 2) 配信
 - ①同期的（時刻を決めて、情報配信・取得）
 - ②非同期的（何時でも情報取得可能）
- 3) 研修方式
 - ①行動を含めた模擬実施
 - ②図上演習

などである。

本報告での方法は、主として各現場機関が日常業務の中で実施し（受講者もちろん各現場機関の職員等、上記1)①に該当）、その実施計画も各現場機関に任せ（上記2)②）、図上演習（上記3)②）として行うためのものである。

このような教材には、細部まで完成ということはありません。B. 資料及び方法のところでも述べたように、職場の状況で異なる事柄が多いからである。ただ、このような教材をインターネットにより配信して、各現場機関で利用することにより、以下のようなことが得られる利点がある。

- ①この教材を基に、自分の職場に適する教材を職員全員で考えることにより、納得のいく教材を作成することが出来る。
- ②上記の過程で、健康危機発生に対する対応センスを培うことが出来る。
- ③状況に応じてどのようなマニュアルが必要かを考えるので、自分の職場に適し、かつ必要なマニュアルを作成することが出来る。
- ④人の配置、物の配置など機関内の整備方針がわかる。
- ⑤必要なマニュアル綴りの種類と構成、壁への貼付物の種類がわかる。

インターネットを用いた研修支援には、上記1)～3)の各組み合わせの方法が考えられる。昨年度の本研究の分担研究では、各機関のインターネット利用環境を調査したが、その報告書で述べたように、各機関でその環境（インターネット接続の台数、OS、回線の太さ等）は相当異なっているため、中央機関からの同期的配信による研修シミュレーションは困難な状況である。しかし、この調査時点から1年余り経過している現在では利用環境が好転している可能性も強く、方法によっては可能である。例えば、センター役割としての中央機関（上記1)②）からの指示、問い合わせ、情報伝達を各機関内に設置した機関センター（この場合、各機関のインターネット接続のPCは1台で良く、ほとんどの機関で確保されている）との間で同期的にやりとり（上記2)①）し、中央機関・各機関共に行動を含めた模擬実施演習（上記3)①）を行う方法である。C. 結果の2.で採用したシステムでは、この方式のシミュレーションも可能であり、そのためのシナリオ作りが今後の課題である。

また、国立保健医療科学院のホームページに

搭載されている「健康危機管理支援情報システム (H-CRISIS)」には様々なコンテンツが掲載されているが、これらを組み合わせて現場機関で

日常的な研修に用いる方法を提示することも今後の課題といえる。

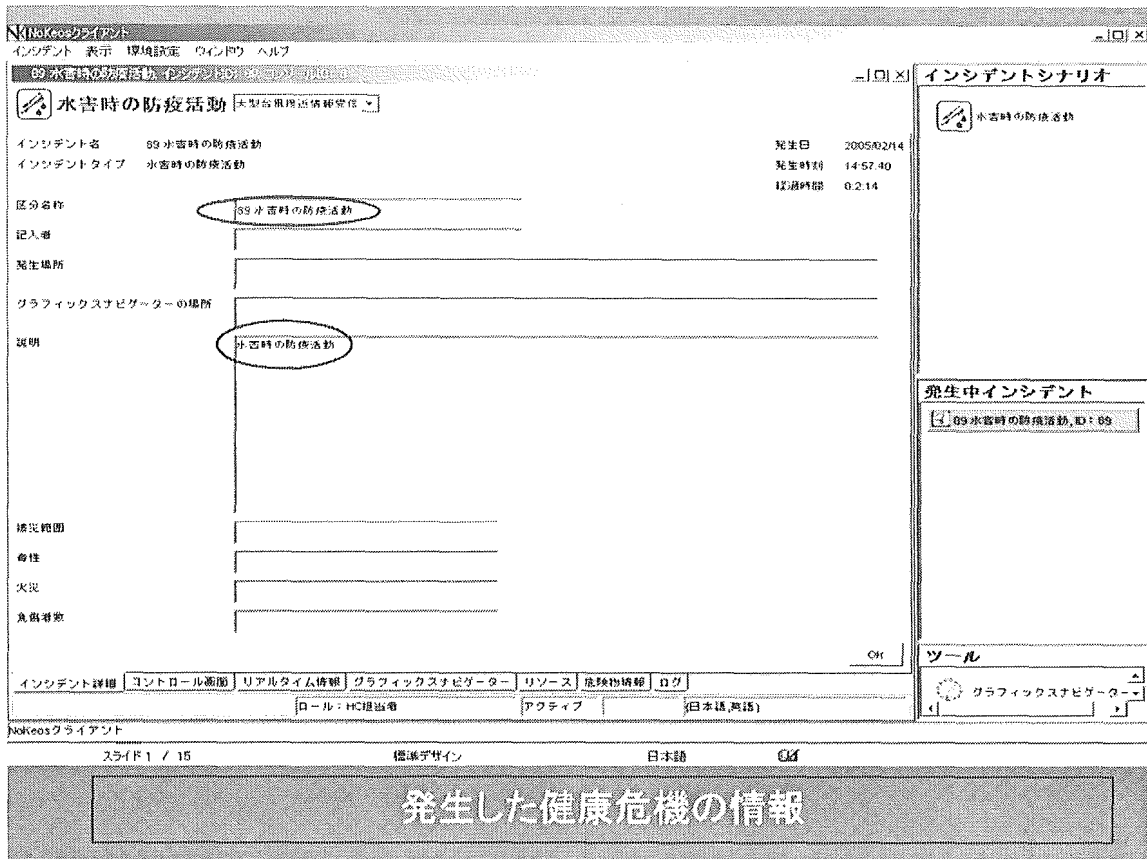


図1 「台風被害保健所活動」教材例のシステムアップ画面
(1)想定する健康危機事象の種類

○システムを端末で開くと、この画面が出る。

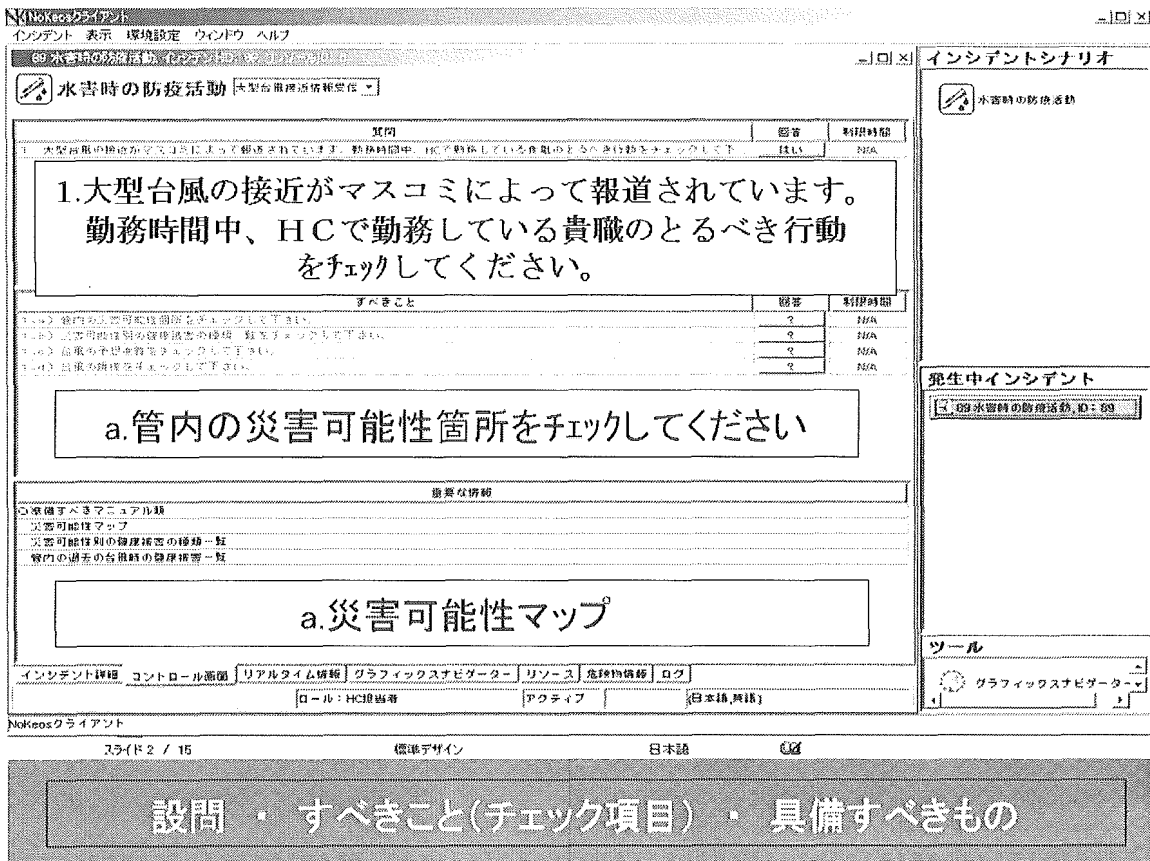


図1 「台風被害保健所活動」教材例のシステムアップ画面
(2)確認項目の例(1)

○確認項目と参照すべき情報・資料が表示される。

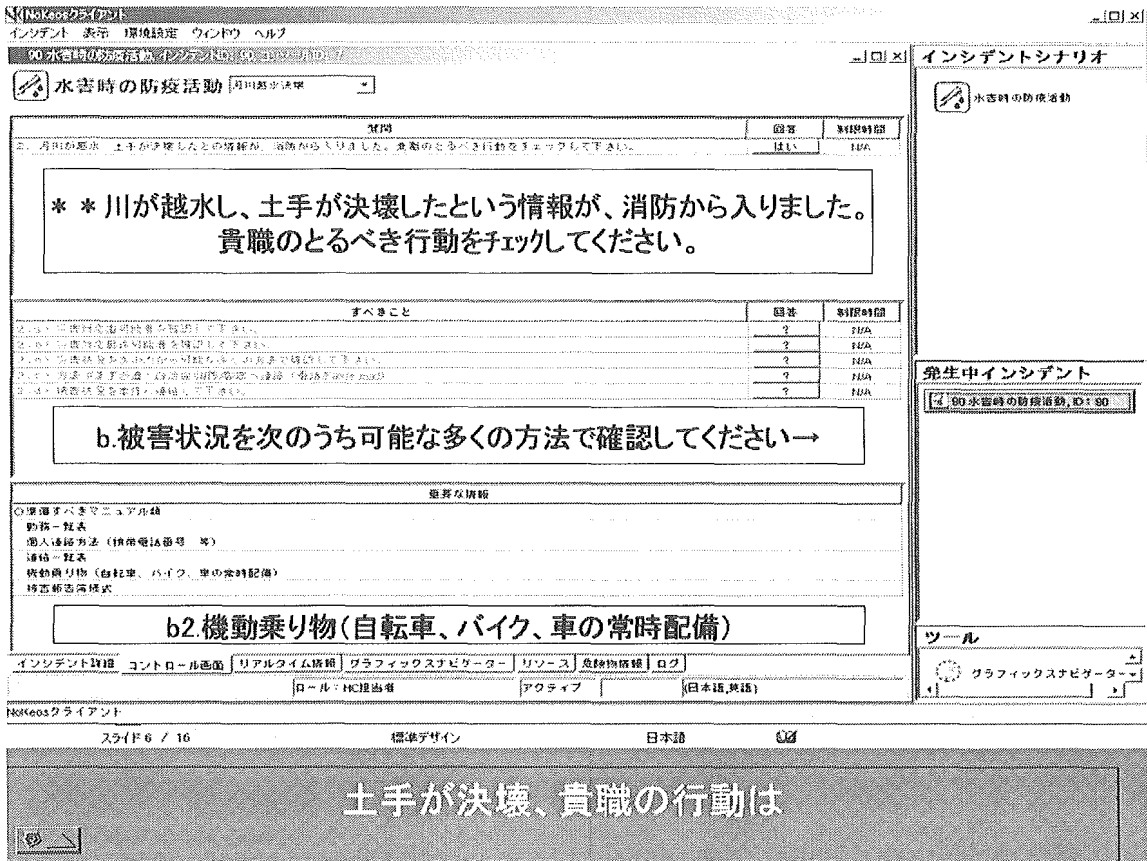


図1 「台風被害保健所活動」教材例のシステムアップ画面
(3)確認項目の例(2)

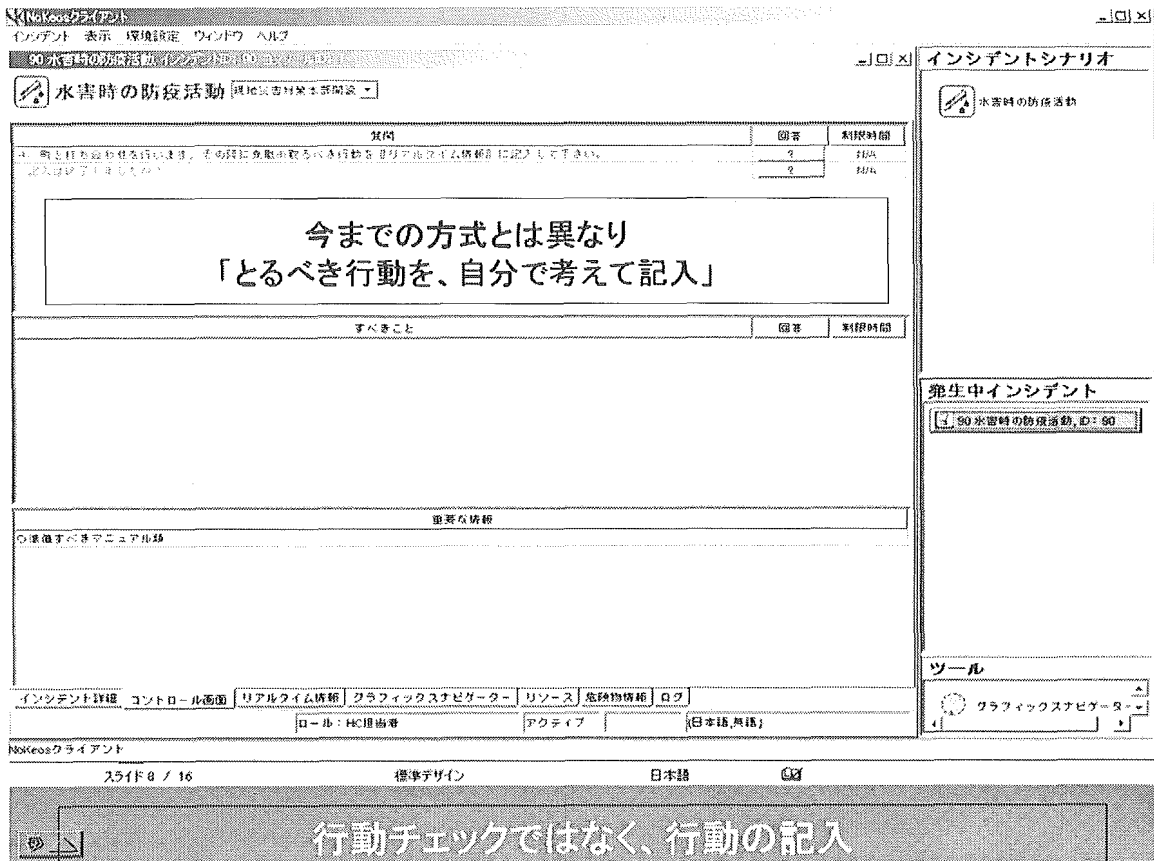


図1 「台風被害保健所活動」教材例のシステムアップ画面
(4)自分で解答を記入する方式の例

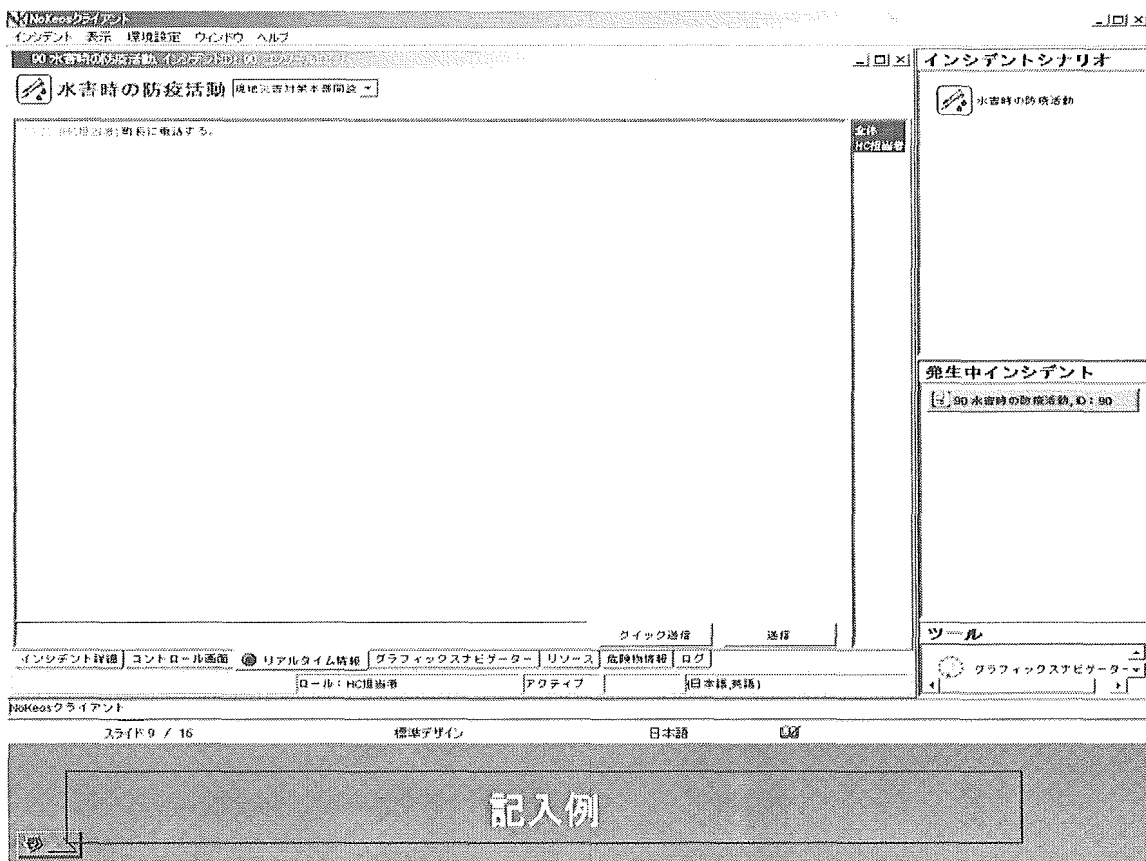


図1 「台風被害保健所活動」教材例のシステムアップ画面
(5)解答画面

incidents 表示 環境設定 ウィンドウ ヘルプ

69 水害時の防疫活動 [大型台風被害情報更新]

水害時の防疫活動 [大型台風被害情報更新]

検索: [50] 更新

発生時刻: 2009/02/28 14:57:40

HC担当者

00:00:00
00:05:00
00:10:00

大型台風被害情報更新

ログインシデント: 89 水害時の防疫活動

分類	タイプ	日時	説明	モジュール	ユーザー
エラー	デフォルト	14.02.2005 15:01:37	受信した情報: 15:01, HC担当者, 任務が完了しました。	NoKeosクライアント	administrator
エラー	デフォルト	14.02.2005 15:01:37	送信された情報: 15:01, HC担当者, 任務が完了しました。	NoKeosクライアント	administrator
警告	空白の回答	14.02.2005 15:00:41	。、大型台風の接近がマスコミによって報道されています。	NoKeosクライアント	administrator
エラー	ステータス変更	14.02.2005 14:57:40	新規インシデントステータス: 大型台風被害情報更新	ユーザーインターフェ	administrator
エラー	ステータス変更	14.02.2005 14:57:40	ステータスが変更されました。大型台風被害情報更新	ユーザーインターフェ	administrator
エラー	タイプ変更	14.02.2005 14:57:40	新規インシデントタイプ: 水害時の防疫活動	ユーザーインターフェ	administrator

インシデント詳細 | コントロール画面 | リアルタイム情報 | クラッシュスナビゲーター | リソース | 危険情報 | ログ

ツール

クラッシュスナビゲーター

NoKeosクライアント

スライド 5 / 15

標準デザイン

日本語

解答などのログ

図1 「台風被害保健所活動」教材例のシステムアップ画面
(7)解答のログ

○端末利用者が解答した内容のログを表示する。

表1 「台風被害保健所活動」教材例

日付	状況	HC担当者	設問	確認方式	準備すべきマニュアル類
9.11	大型台風の接近		1. 大型台風の接近がマスコミによって報道されています。勤務時間中、HCで勤務している貴職のとるべき行動をチェックしてください。 <上記の概要> a. 管内の災害可能性箇所をチェック 健康危機可能性のチェック	a. 管内の災害可能性箇所をチェックしてください a2. 災害可能性別の健康被害の種類一覧をアタックしてください a3. 管内の過去の台風時の健康被害一覧	a. 災害可能性マップ a2. 災害可能性別の健康被害の種類一覧 a3. 管内の過去の台風時の健康被害一覧
			b. 台風の進路予想、規模をチェック	b. 台風の予想進路をチェックしてください。 b2. 台風の規模をチェックしてください	
9.12	河川越水・決壊	勤務可能性確認/被害状況確認、本庁へ連絡	2. * * 河川が氾濫し、土手が決壊したという情報が、消防から入りました。貴職のとるべき行動をチェックしてください。 <上記の概要> a. 勤務可能性確認	a. 災害対応箇所可能性を確認してください a2. 災害対応最終可能性を確認してください b. 被害状況を次のうち可能な多くの方法で確認してください	a. 勤務一覧表 a2. 個人連絡方法(携帯電話番号等) b. 連絡一覧表
			b. 被害状況確認	b1. まず派遣 b2. 自治会、消防、警察との連絡(電話、Fax、e-mail)	b1. 機動乗り物(自転車、バイク、車の常時配備) b1-2. 管内地図 b. 連絡一覧表
			c. 被害状況を本庁へ連絡	c. 被害状況を本庁へ連絡してください	c. 被害報告簿様式

9.13	現地災害対策本部開設	3. 現地災害対策本部を開設する事を本庁との協議(電話連絡)で決定しました。貴職のとるべき行動をチャットしてください。 ＜上記の概要＞ a. 場所の決定 a2. 現地災害対策本部への連絡方法を各所(本庁、消防、警察、国等)に連絡 b. 連絡機器を本部に搬入 c. 連絡機器対応要員を配置 4. 町と打ち合わせをします。貴職のとるべき行動をチャットしてください。 ＜上記の概要＞ a. 町の要請を聞く(メモをとって確認 すぐ可能な事を指示 簡易文書にして確認 所内検討会議 対応策を町と本庁に連絡)	3. 現地災害対策本部を開設する事を本庁との協議(電話連絡)で決定しました。貴職のとるべき行動をチャットしてください。 a. 場所を決定してください a2. 現地災害対策本部への連絡方法を各所(本庁、消防、警察、国等)に連絡してください b. 連絡機器を本部に搬入してください c. 連絡機器対応要員を配置してください a. 町の要請を聞きながらメモをとって、それを町に確認してください b. その中ですぐ可能な事を行動(指示)に移してください c. 要請内容をメモを元に簡易文書にして町に確認してください d. 所内で検討会議を開いてください e. 決定した対応策を町に連絡してください e2. 決定した対応策を本庁に連絡してください f. 簡易文書を作成し、保存してください	a2. 前記2bの連絡一覧表 b. 連絡機器一覧表 c. 連絡機器対応要員の配置表と連絡方法表
------	------------	--	--	---

			5. 町の要請で、浸水地区の消毒と健康相談を実施する事になりました。貴職のどるべき行動をチャックしてください。		
	逆性石けん液等の購入手配/巡回健康相談対応について各町の状況把握		5. 町の要請で、浸水地区の消毒と健康相談を実施する事になりました。貴職のどるべき行動をチャックしてください。		
			＜上記の概要＞ a. 逆性石けん液等の購入手配(数量)の確定		
			a. 消毒する場所を種類ごとに(道路、排水溝、家屋等)確定してください	a. 管内の詳細地図	
			a2. 種類ごとに必要な消毒薬(逆性石けん液等)とその個数を確定してください	a2. 種類ごとに必要な消毒薬(逆性石けん液等)とその数量の一覧表	
			a3. の携行付属品の必要個数を確定してください	a3. 必要な携行付属品の一覧表	
			a4. 移動手段を確定してください	a4. 前記2b2の機動乗り物一覧表	
			a5. 出勤人数と人員を確定してください	a5. 前記2aの勤務一覧表	
			a6. 不足品の購入・借り入れ手配をしてください	a6. 不足品の購入・借り入れ手配のネットワーク(一覧)	
			b. 健康相談の実施(可能保健師の人数→不足の場合、支援要請、携帯物の種類を確定し、個数確認)	b. 管内の詳細地図	
				b1-2. 前記2aの勤務一覧表	
			b2. 携帯物の種類を確定し、個数を確認してください	b2. 健康相談の項目別携行付属品の一覧表	
				b2-2. 前記2b2の機動乗り物一覧表	
			b3. 不足の場合には、支援要請をしてください	b3. 支援要請のネットワーク(一覧)	

9.14	自衛隊と打合せ	6. 知事から自衛隊への協力要請が出され、現地対策本部(健康被害担当)として、自衛隊と打ち合わせることになりました。貴職のとるべき行動をチャックしてください。 ＜上記の概要＞a. 協力要請の内容と場所の確定	a. 協力要請の場所別詳細内容を確定してください a. 災害状況地図
			b. H/C側の協力内容と人数を相談・聞き取り、メモをとってください
			c. メモを自衛隊側に確認してください
			d. その中ですぐ可能な事を行動(指示)に移してください
			e. 合意内容をメモを元に簡易文書にして自衛隊側に確認してください
			f. 所内で検討会議を開いてください
			g. 決定した対応策を本庁・町に連絡してください
			h. 簡易文書を作成し、保存してください
	巡回健康相談実施(保健康婦2人1チーム)	7. 巡回健康相談を実施することになりました。貴職のとるべき行動をチャックしてください。	
		＜上記の概要＞a. 巡回健康相談に必要な事項(場所・対象予測人数・相談分野・相談内容例・携行物・緊急度)	a. 巡回健康相談の場所・対象予測人数・相談分野・相談内容例・携行物・緊急度 別の一覧表を作成してください
		7. -b. 巡回健康相談後の対応―――個別担当者がとりあえず実施	b. 不足人数・不足職種・不足物を確定してください。
			c. 移動手段を決めて下さい
			d. 必要な支援要請をして下さい。

		精神・難病・結核患者の安否確認及び、服薬状況・薬の携帯有無確認	8. 弱者対策を練って下さい			
			<p>＜上記の概要＞ a.精神・難病・結核患者の安否確認及び、服薬状況・薬の携帯有無の確認</p> <p>b.巡回健康相談後の対応検討</p>	<p>a.精神・難病・結核患者の安否確認及び、服薬状況・薬の携帯有無の確認</p> <p>b.巡回健康相談で現れた内容を整理して下さい。</p>	<p>a.精神・難病・結核患者の名簿</p> <p>b.巡回相談内容と処置一覧表</p>	
9.15		<p>役場まで逆性石けん液を取りに行くよう広報車で周知</p> <p>住民へ逆性石けん液の各戸配布協力依頼→ボランティア協力者</p> <p>精神保健福祉ボランティアグループへ「お話しボランティア」活動依頼</p> <p>保健所精神保健福祉相談員が巡回健康相談スタッフへ加入</p>				
9.16						

表2 「台風被害保健所活動」 実際面からの教材への提案

1. 保健所の現状

- ① 「健康危機管理」は、一般的に各自治体では防災対策と呼ばれ、保健所業務に関する分野を特に健康危機管理と呼んでいる。
- ② 自治体全体の防災マニュアルに従って保健所を含む各部局・部署が動く。
- ③ 自然災害においては保健所独自の動きは制約を受け、役割が規定されている。
- ④ 現地対策本部は事務所・建設事務所・農林水産事務所などを含み、地域本部長は事務所長、保健所長はその他の所長とともに副本部長とされ、それぞれの役割分担を規定されたマニュアルに従い行動する。
- ⑤ 保健所業務に関連した健康危機管理を必要とする事件（大規模感染症・化学物質による広範な健康被害等）の場合にも、県庁内に健康危機管理対策会議が設置され、その行動マニュアルにより保健所の活動が規定される。しかし所内での対策本部長は所長であり、判断・指示等を行うことになる。
- ⑥ 県では個別の対策マニュアル（食中毒、感染症、水質汚染等）が20種類以上用意されており、保健所に配備されている。
- ⑦ 自然災害に対する災害リスト、マニュアルは防災局、建設事務所が専門的に詳細な情報を持っているので、情報提供を受ければよいので、自ら準備する必要はない。
- ⑧ 自然災害については、上記のように役割が規定されるので、警察や消防といった機関への連絡も、基幹事項は連絡調整部署が行い、保健所は個別事項となり、担当部署での連絡項目となる。
- ⑨ マスコミ報道される程大事件ではないような中小規模の災害や、感染症・食中毒といったルーチンな健康危機管理はほとんどの保健所長が経験しており、連絡先や、どんな情報はどこにあるのかは把握されている場合も多い。

2. 必要な方策

- ① 地域消毒の実際は保健所の専門職以外で
防疫対策で行った地域の消毒は、保健所の専門職を動員して行うことはあまり得策とは思えない。本来は、専門職はコーディネイト（指揮も）役、実施はボランティアや支援人員か、民間の業者に委託。
- ② 個人情報の閲覧システム整備
災害弱者（障害者、難病、痴呆等）リストの作成が必要だが、守秘義務のある個人情報なので、簡単に共有はできない。閲覧の方式（システム）を検討整備。
- ③ 保健所の機動力整備
保健所には機動力が無い。4WD車、オフロードバイク、軽トラックといった移動手段が必要。

④ 避難所では、トイレの確保が重要

老人や障害者でも利用のできる洋式（温便座でウォシュレット付がベター）。トイレの利用ができないために水分を制限して脱水になったり、エコノミークラス症候群になることが多発する。このような設備は、避難所になっている学校の体育館などにはほとんど無い。

○利用できるトイレのリストが必要。

- 1)福祉施設、民間のスーパーや事務所
- 2)移動式簡易トイレ
- 3)どこでレンタルできるのかの把握。

⑤ ペットを連れての避難の問題

ペットをどう扱うかが問題。家族同様に暮らしていたものを、動物は外と分けることも後々問題となる。

しかし、飼い主ではない人や、動物嫌いの人と一緒にするわけにもいかない。

⑥ 携帯を始めとする通信機器は、アンテナ局が機能停止すると繋がりにくくなる

都市部では複数のアンテナ局がありどれかがカバーするが、1つしかない地方ではそれが機能停止すると通信不能となる。

このときにアマチュア無線が役に立つ。モバイルハムをしている人の車を高台にもっていくと、地域一体に通信できる。ボランティア団体として、アマチュア無線グループも有用。

⑦ ボランティアの窓口を専任で決めておく

- 1)リーダーのいないボランティア集団や、個人ボランティア向けに、専任のコーディネーターが必要。災害が起きるとボランティアが一斉に応援に駆けつけてくれる。
- 2)自治体からも支援派遣要員が来る。きちんとした窓口とコーディネーターが必要。
- 3)災害援助物資や義援金が送られて来る。これにも専任の窓口が必要。しかしこれは保健所ではなく、他の部署で受付を担当すべき。あとでもめる元になる。

⑧ 女性の生理用品の確保

オムツと違って代用が利きにくい。トイレと同じく、現在はどんな緊急事態であってもアメニティーということは重視する必要がある。トイレを我慢して危険な状態になったり、ペットと過ごせないなら避難所を離れるとか、快適に過ごせない避難所なら居たくないと思うのか、避難所から出ていく人も多く見られる。

とりあえず命さえ助かれば良いということではなく、人としての尊厳や精神的充足度が人の命を左右するということを認識する必要がある。

⑨ マスコミの対応

人、場所、時間を決めて窓口とするのは当然だが、決め付け取材、現場でのゲリラ取材に会う。こういう筋書きの報道番組を作りたいという意図があるので、マスコミの都合のいいように編集されて使われることがある。偽りではないが、かなり捻じ曲げられることもある。

1)憶測、可能性では話さない。

2)質問には短く。

⑩ 食品よりも水の確保

ラッピングされた食品やインスタント食品、ボトリングされた飲料が普及しており、家庭にカセットコンロやバーベキューセットなどがかなりあるので、水害時には食品にはあまり困らない。水が最も重要。

⑪ 初期からの系統立ったPTSD対策が必要

⑫ 現場からのフィードバック

状況は刻々と変化するので、現場からそれをフィードバックすることが必要。

交代要員のきちんとした引継ぎと本部への報告（できるだけ文書で。言葉は消えてしまうし、忘れてしまう）。

くどいくらい連絡システムを構築して徹底しておくことが必要（情報はダブってもよいが、抜け落ちると困る）。

⑬ 援助活動を行う職員の健康管理

ともすれば倒れるまで不眠不休で行うのが美德のように思われ、マスコミもそういった構図を喜ぶ。しかし援助活動を行う者が心身ともに健全な状態でなければ、適切な判断を下し、迅速かつ効率的な援助はできない。

きちんとしたスタッフの交代シフトを組み、十分な身体および精神の休養を与えながら活動することが必要。もちろん指揮官本人も含めて。

消防やレスキューなどはきちんとした体制で活動しており、日赤の医療班もきちんとした交代シフトが組まれている。

⑭ 非常電源として液晶パネルの利用や、最近では小型の燃料電池システムが有用

非常電源としてエンジン式発電機を用いる例が多いが、現地対策本部では不都合なことが多い、通信機器やパソコン程度なら、液晶パネルの利用や、最近では小型の燃料電池システムも開発されている。

⑮ 通信手段、活動方法、移動手段・方法などの複数の方法と順位付け

通信手段、活動方法、移動手段・方法などを決める時には、複数の方法を決めて順位付けを行っておく。ダメだった場合に次にどうするかをすぐに変更できるようにしておき、スタッフの共通認識としておくことが必要。手段・活動にもトリアージが必要。

⑯ 相手にとって必要なことを行う

保健所としての機能と役割を十分に認識して専門機能に単純・特化することが良い。警察や消防など装備を持ち機動力があり、組織だって活動している分野に立ち入らない方が良い。かなり邪魔になり迷惑とされ大きなトラブルとなることもある。

また活動の引け際も十分に極めることが必要。よかれと思う行動がよくないということが往々にしてある。行政として何かやらねばという義務意識や自己満足ではなく、相手にとって必要なことを行うということを念頭に置くことが必要。